

# ワイヤーグリッパー 取扱説明書

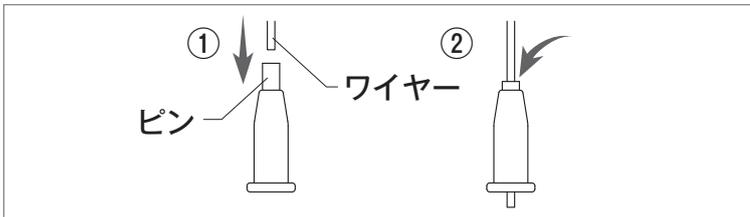
この度は **TRUSCO** 製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
ご使用前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しくお使いください。  
また、お読みになった後は大切に保管し、必要な時にお読みください。

対象品番: TWF-21  
TWF-21B  
TWF-32T

## 取扱方法

### スタンダードタイプ

グリッパー機能をもつ基本機構部です。天井に固定する場合はピンを下へ、中間吊り・床固定の場合はピンを上へ向けてください。



- ① ピンの方からワイヤーを差し込んで通します。ワイヤーは金具に十分に挿入してください。そのままワイヤーをグリッパーします。
- ② 外すときはピンを押しながら、ワイヤーを引き抜いてください。

## 許容荷重

吊り下げる重量を確認して、ご使用してください。金具と組み合わせた許容荷重は下表をご参照ください。  
金具は製品ごとに設定された許容荷重・適合ワイヤー径を厳守してご使用ください(カタログ等参照)。  
また、破断荷重をご参照の上、各規格・標準や指針などに適合するよう製品をご選定ください。  
ワイヤーはSUS304、7×7ヨリをご使用ください。

### TWFシリーズ許容荷重

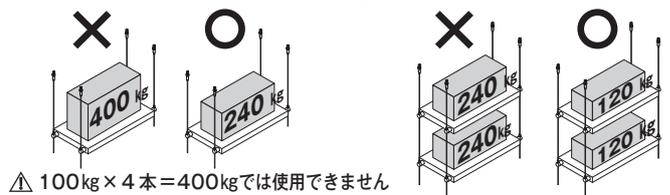
下表はTWFシリーズの金具(品番:TWF-〇〇)を使用した場合の許容荷重です。  
φ3.0ワイヤーもTWFシリーズと組合わせた場合は、より高い安全率でご使用になれます。

ワイヤー線径(mm)	φ3.0
許容荷重(kg)	100
破断荷重(kgf)	470~530

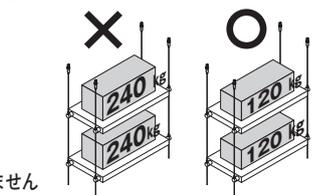
- ・許容荷重はワイヤー1本あたりの値です。1本のワイヤーに金具を複数取付けた場合でも全体の荷重の合計が許容荷重を超えないようにご使用ください。
- ・複数本のワイヤーで吊り下げる場合、1本のワイヤーに荷重が集中しないよう、各ワイヤーに均等に荷重が加わるようにご使用ください。
- ・TWFシリーズにはφ3.0より細いワイヤーはご使用になれません。
- ・1つの対象物を複数のワイヤーで吊り下げる(2点~4点吊り)場合には、ワイヤー1本あたりの許容荷重を合算し、その値の60%にした値を安全にご使用になる為の目安としてご検討ください(右図参照)。また、5点吊り以上の場合は、4点吊りと同じ許容荷重でご使用ください。

■ ワイヤー線径の許容荷重×本数×60%  
(参考) φ3.0ワイヤー、4点吊りの許容荷重  
 $100\text{kg} \times 4\text{本} \times 0.6 = 240\text{kg}$

棚板を増やした場合も、荷重は天井面の金具に集中するので、重量の合計が240kg以内になるようご使用ください。



△ 100kg×4本=400kgでは使用できません



弊社では、常により良い製品を目指し、仕様・デザイン・生産技術等、あらゆる面でさまざまな改良を積み重ねております。  
つきましては、この取扱説明書に記載している仕様は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

# 注意事項

## 警告

- 製品を取付ける箇所の強度を確認し、荷重に耐えられるよう適切なサイズのネジやアンカーを使用して確実に取付けてください。
- 金具を取付ける方向(上下)が正しいことを必ずご確認の上ご使用ください(図1)。金具は逆向き状態ではワイヤーを保持できないため落下し、大変危険です。
- ワイヤーが金具に十分挿入されていることを荷重をかける前に確認してください(図2)。挿入が不十分な場合、落下によるケガや破損の原因となります。
- 金具には適合するワイヤー径より細いワイヤーは使用しないでください。ワイヤーが抜ける場合があります大変危険です。
- 製品の分解や改造は絶対にお止めください。
- ワイヤーには折れ・素線の切断・潰れなど異常がないことをご確認の上ご使用ください(図4)。異常があった場合は使用を中止し、新しいワイヤーにお取り替えください。
- 製品を故意に強く引張ったり、揺らしたりすると吊り元が破損したり展示物が落下する恐れがあり大変危険です(図5)。お様が遊んだりしないようご注意ください。
- 人が乗ったり、ぶら下がるなどの人命に関わる用途には絶対に使用しないでください(図5)。
- 揺れや荷重の不均衡により、1箇所のワイヤーや金具に思わぬ負荷が集中する場合があります。許容荷重には余裕を持って製品をご選定、ご使用ください(図6)。
- 許容荷重を超えて使用した金具の再使用はお止めください。金具内部の破損などの原因で十分な強度を得られなくなっている場合があります大変危険です。

## 注意

- 吊り下げ作業は事故防止のため、必ず2名以上で行ってください(図7)。
- 安全のため、必ず製造元のワイヤー製品(SUS304、7×7ヨリ)をご使用ください。他社のワイヤー製品を使用した場合、錆や強度低下の原因となる場合があります。
- ワイヤーが吊る物・壁・柱など建築構造物に接触しないようにご使用ください。ワイヤーに傷がつき強度低下の原因となる場合があります。直接触れないように、ワイヤーの保護をお願いします。
- ワイヤーに強い張力が加わっている状態では人が揺らしたり、ぶつかった時の衝撃などで許容荷重を超えてしまう場合があります。人が手を触れる場所でご使用になる際は、危険防止のため許容荷重には余裕を持って製品をご選定いただけるようお願いいたします。
- 展示物を中空に吊り下げる場合、揺れた時に周囲にぶつかるなどして壁面や展示物が破損する事があります。金具の選定・施工時には展示物の周囲に十分な間隔が取れるよう、余裕を持った配置をお願いします。
- 先端がほつれたワイヤーは指先などに素線が刺さる場合がありますので、お取扱いには十分ご注意ください(図8)。また、先端がほつれた状態では器具に挿入できなくなりますので、新しいワイヤーにお取替えいただくか、ワイヤーの先端をカットしてご使用ください。
- お客様ご自身でカットしたワイヤーを使用する場合、ほつれ防止のためワイヤーの先端にハンダ処理をしてください。
- 自在タイプの金具は傾斜張りに対応するように自由に回転しますが、金具が回転しない逆の方向に力が加わるような使い方は絶対にしないでください。金具の破損の原因になるばかりか思わぬ事故の原因となります(図9)。
- 吊っている対象物を回転させるなど、ワイヤーに常にねじれの力が加わる状態での使用はお止めください(図10)。ワイヤーが金具から抜ける場合があります大変危険です。

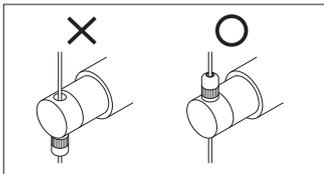


図1

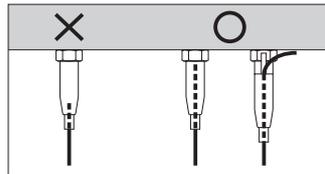


図2

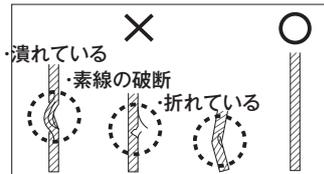


図4

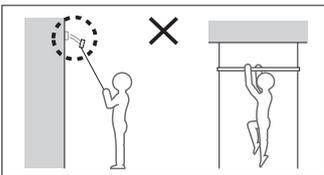


図5

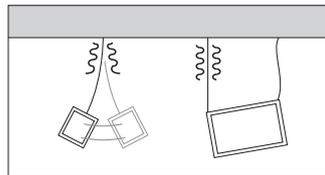


図6

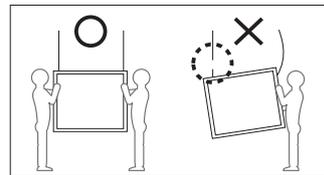


図7

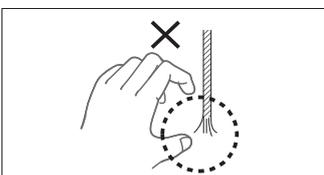


図8

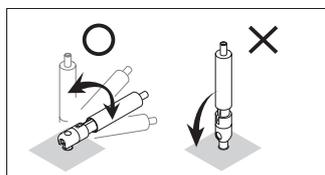


図9

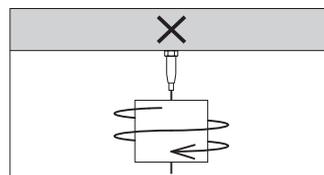


図10

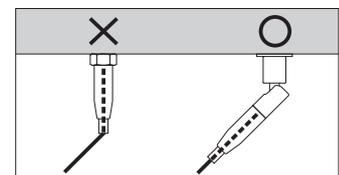


図11

## 使用上のご注意

- ワイヤーを張る方向と金具の方向が一直線になるようにして使用してください。斜めに張るときは、自在タイプの金具(TWF-32+T等)をご使用ください(図11)。
- 素手でワイヤーを強く引っ張らないでください。ケガの原因になります。
- エクステリア用以外の製品は必ず屋内でご使用ください。
- Sタイプ - ストッパーキャップ型の金具を使用する場合、ストッパーキャップは必ず締付けてご使用ください。
- 取付けた棚やパイプに商品などを載せると、重量による伸び等のためワイヤーの張りがゆるむことがあります。その場合、再度床側の金具でワイヤーを張り直してゆるみを取ってください。
- 施工時に使用前の金具内部にワイヤーの切りクズや塵などが詰まったり、永年のご使用により内部にホコリが溜まるなどの要因により、金具がスムーズに動かなくなる場合があります。その場合、使用を中止し新しい金具への交換をお願いします。
- カタログに記載された各製品の使用例をご参照の上ご使用ください。また、使用方法についてご不明な点がありましたら当社までお問い合わせください。
- ご使用に際しては必ずお客様にて事前に仕様確認を行い、使用目的に適合するかどうかをご確認ください。